

研究課題 (テーマ)	生物工学科でのキャリアビジョン		
研究者	所属学科等	職	氏 名
代表者	生物工学科	教授	占部大介
	生物工学科	教授	野村泰治
研究結果の概要			
将来、大学(院)卒業後に県内企業への就職が見込まれる県内高校生に向けて、生物工学科で描けるキャリアの具体例を紹介し、①本学科の受験倍率向上、②県内企業への就職促進を目指す。本プログラムでは、以下の2つの活動を実施した。 県内高校へのOB訪問：生物工学科から大学院に進学したM1とM2の学生一名ずつがそれぞれ出身高校である魚津高校(7/11)と八尾高校(8/19)に訪問し、高校1-3年生、各15名程度を対象に、現在取り組んでいる研究、その研究経験を生かしたキャリア形成について30分程度講演し、30分程度の質疑・応答を行った。講演後には生物工学科や将来のキャリア形成に関するアンケートを実施した。高校生にとっては、教員が学科内容や研究について説明するよりも理解しやすく、学科紹介としては効果があると感じた。アンケート内容から、生物工学科に対する理解や興味が深まったことや、親近感のあるOBが研究に励んでいる姿が印象深く映っていることが分かった。一方で、県内就職を高校生の時点から希望している学生は一定程度いるが、将来像を明確に描いている生徒はほとんどおらず、大学進学やその後の教育が大きく影響する事が分かった。 学科構成員と高校生との懇談会：オープンキャンパスが実施された日の午後に、生物工学科懇談会を2回開催した。学科教員2名が30分程度、大学院生5名が15分程度、それぞれ簡単な研究紹介と自らの視点から学科紹介を行った。その後、参加した保護者と高校生が大学教員や大学院生と、大学生活や学問・研究に関して懇談した。2回とも10名以上の参加者があり、2時間半程度の懇談会を行った。高校3年生だけではなく、1,2年生やその保護者も参加してくれた。県外の生徒もあり、またオープンキャンパスの定員に漏れたため、懇談会のみに参加したといった生徒や2回とも参加した生徒もいた。			
今後の展開			
OB訪問、懇談会も参加人数は多くはないものの、参加する生徒の中には生物工学科について深い興味を持っている生徒も少なからずいた。次年度以降も同様な活動を根気強く続けて、高校生と直接コミュニケーションをとることで、高校生には本学科への関心を深め、また本学科への進学、県内就職のビジョンを描いてもらいたい。また参加人数を増加させるために、広報活動に力を入れる。			